

Ⅲ 都市の発展

1. 市域の変遷と土地利用の変化

塩釜は1889年（明治22）に町制を施行して塩釜町となった。1938年（昭和13）には多賀城村一本松地区が塩釜町に編入された。1941年（昭和16）に塩釜市は市制を施行した。その後1949年（昭和24）に多賀城村牛生地区が塩釜市に編入され、さらに1950年（昭和25）には松島湾上の桂島・野々島・寒風沢など島嶼部に成立していた浦戸村3.86km²が塩釜市に編入され、市域が拡大した。これ以後、塩釜は他の市町村との合併や編入してこなかったが、市の面積は塩釜湾（千賀の浦ともいう）の海面埋立により拡大してきた。

市の中心部を東流する秣川の河口付近をはじめとする塩釜湾の海面埋立は、近世以後になされてきた。塩釜市の海岸地形は沈降海岸地形であり、海岸線は

入り組んでいたが、ここを埋め立てて面積を拡大させてきた。表Ⅲ-1に昭和期以降の海岸埋立を示したが、その面積は1.56km²に達する。塩釜市の総面積は1989年の国土地理院の測量見直しの結果によれば17.76m²となっているが、海面埋立面積はその8.8%に達している。

塩釜市の資料により土地利用の面積割合別推移をみると（表Ⅲ-2）、1965年には総面積の16.5%が田や畑などの耕地であり、宅地はその23.0%を、山林は21.9%を占めていた。その後、高度成長期に塩釜市でも都市化が進み、都市的利用のために耕地や山林の転用が進み、宅地などが増加してきた。1985年には耕地の割合が6.0%に、山林の割合が7.7%に減少し、逆に宅地の割合は36.1%に増加した。その後1985～90年にはそれぞれの面積割合の変化は少なくなっている。

表Ⅲ-1 塩釜市の海面埋立

年	事 項	地 域	埋立面積
1933	第1期築港工事完成	尾島町、旭町の一部の埋立	0.60km ²
1950	公有水面埋立	字杉の入表	0.03 "
1954	公有水面埋立	字杉の入表	0.08 "
1960	公有水面埋立	字杉の入表、字石田、字門前、 字笠神、字藤倉	0.16 "
61～63	公有水面埋立	<u>野々島</u> 、 <u>石浜</u> 、 <u>桂浜</u> 、 <u>北浜</u> 、字杉の入裏	0.18 "
65～69	公有水面埋立	中の島、字石田、新浜町2・3丁目、 海岸通、北浜1・4丁目、字藤倉、 貞山通1・2・3丁目、港町1丁目	0.26 "
70～74	公有水面埋立	新浜町1・3丁目、北浜4丁目、 字石田、 <u>桂島</u> 、 <u>石浜</u> 、 <u>寒風沢</u>	0.17 "
76～78	公有水面埋立	字石田、 <u>字越の浦</u> 、 <u>野々島</u> 、 <u>石浜</u>	0.04 "
1980	公有水面埋立	新浜町3丁目、 <u>寒風沢</u>	0.01 "
1983	公有水面埋立	<u>野々島</u>	0.02 "
1986	公有水面埋立	<u>海岸通</u>	0.01 "
合計埋立面積			1.56m ²

注：下線部は島嶼部地域の埋立である。

資料：塩釜市（1992）：『塩釜市統計書平成3年度版』p. 7により作成。

表Ⅲ－２ 塩釜市の土地利用面積割合の変化

(割合の単位は%、面積の単位はha)

	1965年 割合	1970年 割合	1975年 割合	1980年 割合	1985年 割合	1991年	
						割合	面積
総面積	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	1,776.0
耕地	16.5	15.3	11.0	8.9	6.0	6.0	109.3
宅地	23.0	28.0	30.6	33.7	36.1	37.2	667.4
山林	21.9	17.3	14.7	12.5	7.7	8.2	144.3
牧場	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	35.9
その他	38.6	39.4	43.7	44.9	48.2	46.4	819.1

資料：塩釜市：『塩釜市統計書』により作成。

2 都市化と住宅地化

(1) 第二次世界大戦前の都市発展

塩釜の市街地は、市の中央部の丘陵地に社殿をもつ塩釜神社の南側を東流する秋川の谷底部から河口付近にかけて発達し、さらに河口付近から塩釜湾の埋立地の低地に発達してきた。明治初期になると、新政府の役人や軍人が海路で塩釜を経由して仙台へ行くことが多くなり、塩釜は東北地方でも有数の港町としての機能をさらに強めてきた。塩釜港は1882年（明治15）の港内改修工事¹⁾以来、現在に至るまで幾度となく整備・改修され、港湾面積が拡大されてきた。さらに、1887年（明治20）には東北本線鉄道施設工事材料の荷揚げ場としての海面埋立工事が完成し²⁾、これにより鉄道が敷かれ、塩釜は鉄道により東京と結びつくようになった。その結果、塩釜は海運・鉄道の中継取引地としての機能を強めるようになった。

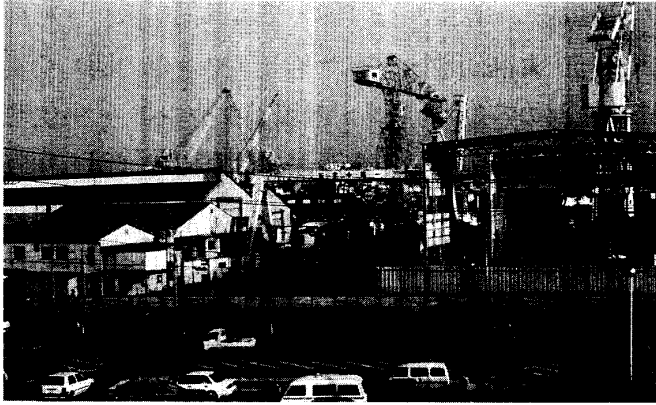
明治初期～中期には塩釜小学校・塩釜郵便局・塩釜警察署・消防が設置され、電信が開通するなど、教育・行政機能も整備されるようになり、塩釜は近隣地域の中心地としての機能をもつようになってきた。1889年（明治22）2月9日の市町村制施行に基づき、塩釜は町制を施行するに至った。当時の人口は4,223人、世帯数は783戸であった³⁾。

経済活動をみると、従来より漁港としての機能をもっている塩釜では、かつお・まぐろの塩蔵品やか

つお節などの製造が明治中期以降に活発になった。1909年（明治42）には北浜埋立地に本格的な造船所が立地し⁴⁾、さらに大正期には漁業関連で製氷工場や船具店も活動を強めるようになってきた。それらの活動が盛んになるにつれて一般商店や住宅も増加し、人口も増加してきた。1920年（大正9）の第1回国勢調査で塩釜町の人口は13,139人に達した。

塩釜町の発展やその周辺地域の発展に伴い、仙台市から塩釜・松島湾岸地域にかけて走る鉄道の建設機運が高まってきた。その結果、宮城鉄道株式会社（この会社は1944年に国鉄に買収された）により1925年（大正14）に仙台～西塩釜間が開通した⁵⁾。さらに1928年（昭和3）には仙台～石巻間の仙石線全線が開通し⁶⁾、これにより塩釜町では、近世以来中心商店街として発展してきた本町通りの東部に本塩釜駅が開設され、塩釜町は仙台市と結びつきをさらに強めるようになった。

昭和初期においても塩釜町は水産物加工や缶詰製造業および造船業などの海に関連した産業の発展が続いた。すなわち、塩釜湾北岸の北浜町では1938年（昭和13）に東北地方屈指の鋼鉄船建造施設をもつ東北船渠鉄工株式会社が立地し⁷⁾、さらに他に4社ほどの造船所が立地するなど、北浜町（町の位置については巻頭の町別区分の図を参照のこと）は造船工業地域となり、現在に至っている（写真Ⅲ－1）。一方、塩釜湾南岸では水産加工場や漁業関連施設が立地し、また尾島町では船員などを対象とする歓楽



写真Ⅲ－１ 塩釜市の造船工場

塩釜湾北側の北浜四丁目に立地している造船工場。写真は東塩釜駅より撮影したものである。(内山撮影)

街が発展した。その後、1941年（昭和16）11月23日に塩釜は市制を施行するに至った。なお当時の人口は31,286人、世帯数5,717であった⁸⁾。

(2) 第二次世界大戦後の都市発展と住宅地開発

a 塩釜港とその付近の整備

第二次世界大戦直後は食料不足もあって、塩釜市の漁業および水産加工業は活気を呈した。このころ塩釜市の水産加工業者は700を超えた。しかし1948年頃からいわしの不漁がしばらく続いたことや、その後に食料事情が好転してきたことにより、中小規模の加工業者はしだいに競争力を失ない、閉鎖を余儀なくされてきた。一方、水産物を扱う魚市場は第二次世界大戦中は宮城県水産業会により運営されていたが、1949年には塩釜市がその管理業務を直接担当するようになった。

塩釜市の中心産業が漁業と水産加工業であることから、大型船の接岸可能な埠頭の増設・整備が進められてきた。塩釜湾沿岸部の埋立が進み、その埋立地を中心に港湾関連施設や漁業・水産加工業関連施設が整備されるようになった。すなわち、塩釜港は1951年に漁港法により第三種漁港の指定を、1952年には重要港湾の指定をそれぞれ受けた。そして1959年には塩釜湾の南側で、1万トン岸壁として貞山1号埠頭が完成した。さらに1965年には貞山2号埠頭

(1万トン岸壁)が完成し⁹⁾、貞山3・4号埠頭もその後相次いで完成するなど、港湾整備が進んできた。貞山埠頭付近では水産業関係の工場の他に、石油関連などの近代的施設が設置されてきている。

塩釜港は1960年に特定第三種漁港の指定を受けた。さらに1969年に第4次漁港整備計画が22億1900万円で5ヵ年計画により実施されて以後¹⁰⁾、港湾整備の5ヵ年計画が現在に至るまで連続して実施されてきている。

港湾の整備が進むなかで、1964年に塩釜湾北部の埋立地の新浜町一丁目の埋立地で、鉄筋コンクリート建ての市営塩釜魚市場が開設され、営業を開始した。さらに1969年に塩釜湾北部埋立地の新浜町三丁目で水産加工団地が設置された。この団地は塩釜市団地水産加工業協同組合員264名に賃貸され¹¹⁾、水揚げされた水産物の加工処理や、練製品の製造がなされてきた。このように塩釜市の工業地域は海岸地域の埋立地に発展してきた。

b 住宅地の開発

塩釜市の資料によれば、同市の常住人口は1945年に31,977人であったのが、1947年には4万人を超え、1954年には5万人を超えた。この間1953年には市営アパートが建設されるなど、住宅や道路・鉄道・上水道・下水道などのインフラの整備も進んだ。また仙台市の拡大もあって、そことの結びつきもますます強まってきた。

一方、商業地域は本町（もとまち）を中心商店街として発展してきた。さらに住宅地は当初、本町・旭町・宮町・錦町など、いわゆる塩釜市の中心部で、仙石線の沿線沿いに多かった。しかし塩釜市の発展に伴う人口増加と、仙台市の発展に伴う通勤圏の拡大によって、塩釜市での宅地開発が盛んに行なわれるようになってきた。

ここで近年の塩釜市における住宅地開発をみよう。表Ⅲ－3は1971年以降における塩釜市の宅地開発許可状況を示したものである。これによれば1973・

表Ⅲ－3 塩釜市の1971年以降における宅地開発状況

許可年	件数	住宅戸数	宅地開発面積㎡
1971年	2	130	50,606
1972年	5	168	91,630
1973年	5	1,857	753,129
1974年	3	25	8,186
1975年	5	53	17,643
1976年	3	48	14,567
1977年	5	431	165,329
1978年	5	66	22,970
1979年	2	57	18,275
1980年	5	615	269,851
1981年	4	464	181,788
1982年	2	31	11,092
1983年	2	110	52,056
1984年	8	127	71,404
1985年	3	188	104,274
1986年	4	28	10,556
1987年	—	—	—
1988年	10	141	43,970
1989年	9	179	34,465.35
1990年	3	29	7,628.97
合計	84	4,747	1,929,420.32

資料：塩釜市『塩釜市統計書』により作成。

1977・1980・1981の各年に宅地開発面積が広がっている。この表は許可についての規模を示したものであり、実際の宅地造成完成年次と住宅建設年次は後にずれ込むことになる。さらに図Ⅲ－1には1966年以降における1件1ha以上の住宅団地の開発状況について示した。これによれば近年の塩釜市における大規模住宅団地開発は、市の南西部に位置する母子沢町に建設された玉川団地の開発から始まった。その後の1970年代には、市の北部にある丘陵の南麓地域である藤倉（進出した住宅団地の名：栗田団地）・清水沢（同：鼎ヶ丘団地・清水沢団地）・松陽台（同：松陽台団地）・楓町（同：藤倉邸宅地）などの地区でそれぞれの団地開発が進んできた。なかでも松陽台団地は開発面積・住宅戸数ともに塩釜市で最大の住宅団地となっている。さらに1980年代になると、大規模団地開発は北部の丘陵地域である清水沢（同：新清水沢団地）・伊保石（同：ナミレイ松

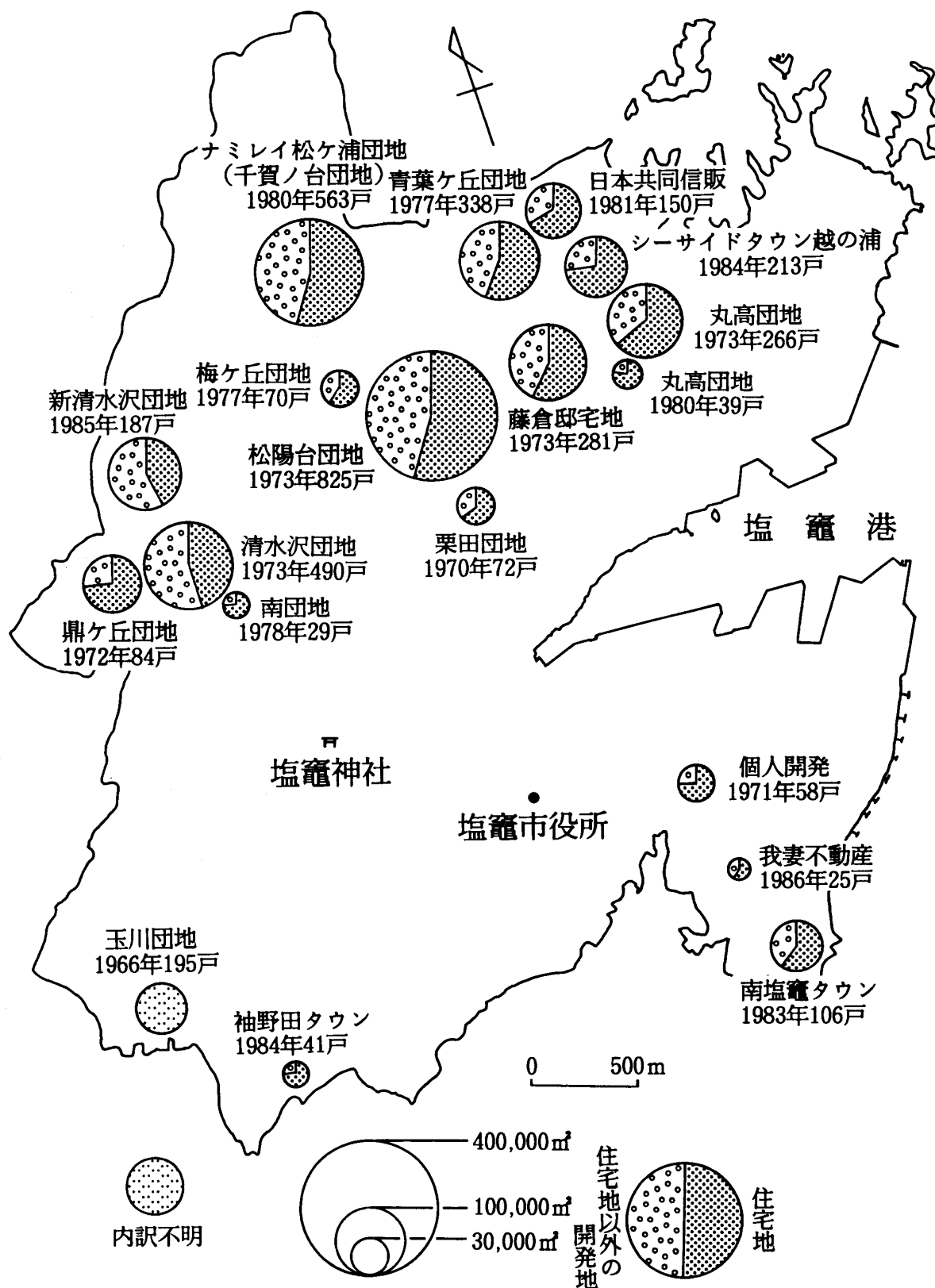
ヶ浦団地）・青葉ヶ丘（同：日本共同信販）・杉の入（同：丸高団地・シーサイドタウン越の浦）や、市南東部の芦畔町（同：南塩釜タウン）・牛生町（同：吾妻不動産）、市南西部の裾野田町（同：裾野田タウン）などの地区でなされてきた。すなわち塩釜市の大規模住宅地団地開発は、都市化されていない広い土地を求めて、旧市街地に隣接する地域から、さらにこの外縁部の丘陵地域へと広がっていき、それらの地域で人口が増加してきた。

一方、中心市街地の外縁部に建設された大規模団地とは別に、4階以上の中高層アパートいわゆるマンションが1976年以降に建設されるようになった。（表Ⅲ－4）。これらの中高層アパートは地元資本だけでなく、東京などの外部大手資本によっても建設されており、いずれも旧市街地に建設されているのが特徴である。

c 仙石線の高架化と跡地整備

塩釜市の市街地の発展・拡大に伴って、市の中心部を縦断して南北に走る仙石線の高架問題が起こってきた。仙石線は市内を走る各種幹線道路と平面交差しており、これによる交通渋滞がひどかった。また塩釜市中心市街地の再開発のためにもこれは障害となっていた。そこで仙石線の市街地部分を高架・複線にするため、1969年に塩釜地区仙石線高架複線早期整備期成同盟会が発足し、市役所内にも仙石線高架複線化促進特別委員会が設置された。その結果、1981年11月1日に西塩釜～東塩釜間の総延長2,770m（高架部分1,627m）の高架複線工事が竣工した。これにより仙石線の高架線路は従来の線路よりも東側に敷設され、仙台～本塩釜間が20分ほどの時間で結ばれるようになったのである。

仙石線の高架化に伴って西塩釜駅・本塩釜駅・東塩釜駅の各駅周辺の整備・再開発が実施されてきた。そして旧仙石線の跡地は道路として整備されるに至った。さらに旧本塩釜駅跡地には再開発ビルとして5階建ての壺番館ビルが1990年に建設された（写真Ⅲ－



図Ⅲ-1 塩釜市における近年の1ha以上の住宅団地開発

注：団地開発名の下に数字は開発許可年と開発戸数。

資料：塩釜市の資料により作成。

表Ⅲ-4 塩釜市における4階以上の

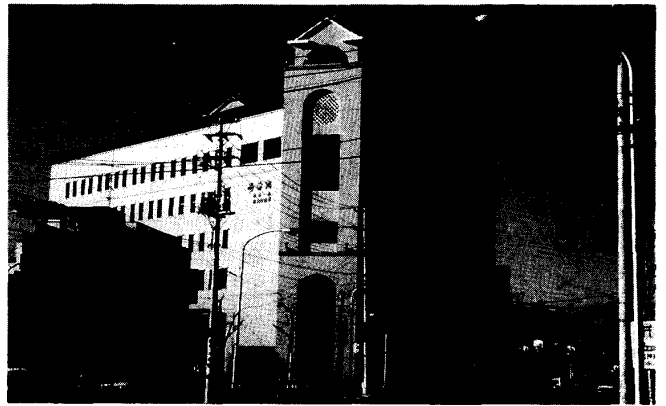
マンション一覧表(1991年)

マンション	所在町名	入居者戸数	階数	建物高さm	竣工年月
A	錦町	28	8	不明	1978年
B	石堂	16	4	不明	1978年9月
C	野田	24	6	不明	1979年3月
D	北浜	25	5	不明	1979年4月
E	東玉川	9	4	不明	1979年11月
F	錦町	30	6	不明	1979年11月
G	白萩町	12	4	不明	1981年4月
H	左浦町	32	9	不明	1982年3月
I	左浦町	9	4	不明	1982年12月
J	南町	不明	5	不明	1983年8月
K	海岸通	15	7	不明	1984年6月
L	尾島町	32	9	不明	1984年
M	北浜	144	14	不明	1984年
N	北浜	21	6	不明	1984年
O	北浜第一地区	15	7	不明	1988年10月
P	旭町	43	9	33.25	1989年5月
Q	新富町	16	4	12.1	1988年9月
R	東玉川	28	5	13.8	1989年7月
S	東玉川	9	4	19.6	1990年2月
T	尾島町	62	8	30.1	1990年3月
U	新富町	12	4	12.1	1990年4月
V	桜ヶ丘	54	10	30.3	1991年3月
W	旭町	57	13	44.85	1991年3月
X	玉川	30	6	25.45	1991年3月
Y	南町	57	11	31.55	1991年9月
Z	新富町	44	6	24.6	1991年9月

資料：塩釜市の資料および聞き取りにより作成。

2)。このビルの2階以下には銀行のほかに地権者の商店が入居している。また3階以上には塩釜市民交流センターとして、市立図書館・視聴覚センターのほか、380人が収容可能なホール（遊ホールと称する）などの公共施設が開設され、市民に利用されている。

ところで本塩釜駅東側には旧国鉄時代の貨物ヤードがある。この貨物ヤードの広さはJR貨物所有分が2.0haで、国鉄清算事業団所有分が2.1haの合計4.1haである。このヤードやここへ通じる貨物線の使用頻度は非常に少なく、このヤードの再開発は、塩



写真Ⅲ-2 再開発ビル「巻番館」

このビルのある場所はかつて仙石線本塩釜駅があった。仙石線の東側への移動と高架複線化によって、多目的ビルが建てられている。(内山撮影)

釜市の港湾再開発とも関連して、今後に期待される。なお塩釜市周辺地域の新興住宅地と、中心商店街や仙石線・東北本線の各駅を連結するため、1988年から市内循環バスが運行されるに至っている。

注および参考文献

- 1) 塩釜市都市政策室秘書広報課(1992):『塩釜市統計書 平成3年版』1ページ。
- 2) 塩釜地域商業近代化委員会(1990):『塩釜地域商業近代化地域計画報告書(基本計画)』塩釜商工会議所, 8ページ。
- 3) 前掲1) 1ページ。
- 4) 前掲2) 10ページ。
- 5) 前掲1) 1ページ。
- 6) 前掲1) 2ページ。
- 7) 前掲2) 10ページ。
- 8) 前掲1) 2ページ。
- 9) 前掲2) 12ページ。
- 10) 塩釜市産業部水産課(1967):『塩釜の水産』塩釜市役所, 2ページ。
- 11) 野田耕平(1986):『明治以降の町の姿と世相の変遷』塩釜市史編纂委員会:『塩釜市史IV 別編II』塩釜市役所, 1~141。